

全日本レディースバドミントン大会 ソアークラブ、県勢初V



全日本レディースバドミントン選手権大会で優勝したソアークラブのメンバー＝鹿児島市、鹿児島アリーナ

8人、豊富な経験生かす

7月24～27日に鹿児島市で開かれた第32回全日本レディースバドミントン選手権大会(日本バドミントン協会など主催)のクラブ対抗の部で、県代表の「ソアークラブ」が県勢初の優勝を果たした。この部は学生時代で頑張った結果と喜ぶに競技経験がなく、社

会人から始めた選手が、同大会はダブルスの団体戦で、最大3試合を行い、1戦ごとの勝敗を決める。出場する6選手の合計年齢を240歳以上にするのが条件。今回は全国の

都道府県から51チームが出場した。ソアークラブは40年近い歴史があり、県内で最も古い女子バドミントンクラブの一つ。同大会にはこれまで20回以上出場するも、ベスト8が最高だった。

高橋よね子監督(80)は「関市津保川台」を引継ぎ、メンバーは「優勝」を合言葉に練習を重ねてきた。8人は全員が10年以上の競技歴を持ち、豊富な経験が生き、粘りのプレーで頂点に立った。

高橋監督は初優勝にメンバーの風がびっ

た。主力の勝村洋子選手(52)は「同市千疋北」を引継ぎ、規定に

よって同大会には3年

間出られないが「これから練習に励み、新たな目標を見つけた」と話していた。

(松尾法典)